

令和6年度 学校園評価(関係者評価)シート

(様式2)

学校園名	加古川市立義務教育学校両荘みらい学園
------	--------------------

1 教育目標	ふるさとを愛し こころ豊かに 学びあうこどもの育成 ～グローバル人材の育成をととして～
--------	---

2 基本方針
(1)めざす(期待する)児童生徒像・・・「自ら考え、行動する児童生徒を育てる」
(2)めざす学校像・・・「児童生徒のための学校をつくる」 児童生徒、保護者、地域や教職員にとって魅力ある学校づくりをめざす。
(3)めざす教師像・・・「児童生徒一人ひとりを大切にする」 さまざまな課題に適切に対応するために、児童生徒を正しく理解し、情熱あふれる教師を目指す。

3 指導目標
9か年一貫教育「両荘プラン」 9か年で涵養する資質 9か年で広がる社会性 3つの両荘コンピテンシー 「知識・創造」「仲間づくり」「自己決定」 3つの活躍の場「学校」「地域」「国際社会」

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:あまりできていない

E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
(1)魅力ある学校づくり	9か年一貫教育「両荘プラン」	A	「ふるさとみらい科」「英語科」など特色ある取組と学習活動の充実を図った。「みとろの丘」との連携や狂言・和太鼓など地域の伝統文化の継承、交流活動など体験活動が充実した。	・様々な特色を生かし、学年ごとの違いもきちんと配慮された活動が見受けられる。・加古川フォーラムのプレゼンを見てよい成果が出ていると感じた。・「みとろの丘」との連携事業では、地域に根ざした活動ができているが、地域との連携がもっとあってもよいと思われる。・始まったばかりで仕方がないが、慌ただしく詰め込んだ感も否めない。	A
(2)知識創造	学習意欲を高めるためのわかる授業づくり	A	英語でのコミュニケーションが日常的に行えるような様々な場面設定ができた。1,2年生から外国語活動を入れ、主体的に学習に取り組む姿勢(学びに向かう力)や能力の育成に努めた。のり入れ授業についても積極的に進めた。	・外国語教育、英語でのコミュニケーション能力は、いまの時代に大きくプラスになる。・外国との交流授業、オンライン授業でも前向きに取り組んでいることがわかる。・授業や勉強の内容がよくわかる子どもたちが増えるように、これからも英語能力の育成に努めてほしい。・外国語活動に意識の差があるように感じるので、先生方が一丸となって取り組んでほしい。	A
(3)仲間づくり	人間関係の構築、仲間づくり活動の充実	B	委員会活動など、自治活動の充実に注力した。特に、9年間のつながりを意識し、縦割り活動の充実を図るなど、各ステージの最高学年がリーダーとなるべく、指示の充実を図った。	・リーダーを育てることは大変だが、これから数年間で力はいくてくると思う。・運動場や中庭で異学年(前期と後期が混ざって)が一緒に遊んでいる姿はほほえましい。・人間関係の難しさがみられる。もっと積極的に進めていく必要がある。リーダー任せになり、リーダーばかりに負担がいかないように、全体で充実できるように取り組んでいく。	B
(4)自己決定	自律的な生き方と、自ら高める規範意識	B	生徒指導では、教員の初動を大切に、丁寧な指導を心がけた。行動の三指針を柱に、TPOをわきまえる行動がとれるよう働きかけた。不登校児童生徒への学習支援について課題。	・不登校は社会問題でもあるので、もっと地域が関わっていく必要があるのではないか。・単学級だった小学校生活から、仲間も増え、子どもたちの関係性が確立されていくことを期待する。・不登校生徒への支援をもっと充実させてほしい。・学園会のリーダーシップが発揮できる場を増やし、児童生徒自らが三指針をとれるように。	B
(5)交流連携	公民館連携などを通して、9か年で広がる社会性	A	図書館を、異学年交流の場として、休み時間や下校の前などに気軽に立ち寄ることができる場に設定した。オンラインを通して、国際社会と交流し、「小さな社会人」から「社会の一員」への意識を持たせた。公民館と連携し、地域社会の一員としての場づくりを行った。	・開校前は心配していたが、公民館との連携もうまくいっている。・立地条件の良さを強みに今後さらに連携を増やしていきたい。・図書館、公民館を活用して、地域への理解を深めたり、社会地域の一員として生活できることは非常に良い。・地域にはまだまだ眠っている人材がいるので、学校＋公民館＋地域のつながりをさらに強くしてもらいたい。	A

